

学力調査等の状況	
<p>「全国学力・学習状況調査(第6学年)」の結果より                      &lt;国語&gt; 全体の結果としては東京都・全国と比較して低い水準にある。漢字の読み書きや言葉の特徴や使い方に関する力は平均並みである。一方で、思考力、判断力、表現力等に関する力は平均より低い。その傾向は記述式の問題において最も顕著であった。自分の考えをまとめるために図表やグラフを用いたり、目的や意図に応じて文章を構成したりする問題が特に正答率が低い。                      &lt;算数&gt; 全体の結果としては東京都・全国と比較して低い水準にある。選択式の問題で基礎的な知識・技能を問う問題に関しては平均並みである。一方でデータを活用して答える問題や記述式の問題において平均と比べてより低い傾向がみられる。複数のデータを関連付けて理由や考えを表現する力が低い。</p> <p>「全国学力・学習状況調査(第6学年)児童質問紙」の結果より                      自分の考えを発表するときに自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している児童が全国の平均より多い。一方で学習した内容について分かった点や改善点を見直して次の学習につなげられている児童や、学んだことをほかの学習に生かそうとする児童は少ない。自分とは違う意見を生かして、学習を進めていくことが苦手な児童が多い傾向があった。また、国語・算数共に勉強が好きで勉強が大切かという質問に関して東京都を下回る結果となり、学習に向かう態度を育てていく必要がある。</p> <p>「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(第4学年～第6学年)」結果より                      ・4～6年生共通して国語に苦手意識が見られた。学習習慣では、都平均比べて自宅・学習塾共に学習をしていない児童が本校では多い。                      ・学習の進め方では、どうやったらうまくいくか、分からないところはどこか等考えながら、学習に取り組んだり、見通しをもって取り組んだりする児童が少ない。                      ・5・6年生では、昨年度と比べて学習の進め方で国語・算数共に意識して学習に取り組んでいることがらが増えた。</p>	
見えてきた課題	
<p>&lt;国語&gt; 漢字の読み書きを徹底して定着を図る。授業において思考力、判断力、表現力を活用する場面を多く設定し、資質能力を育てていく。学年の発達段階に応じて、自分の考えをまとめるために図表やグラフを用いたり、目的や意図に応じて文を構成したりして文章を「書く」活動の理解を深める活動の充実を図る。                      &lt;算数&gt; 図、表、式を相互に関連させたり、口を使った式を用いたりして、数量の関係を捉えられるようにする。計算の仕方を筋道立てて説明することができるようにする。・数についての感覚を豊かにする。                      &lt;共通&gt; 他の人と意見が違ったときは、自分の考えを相手に伝えたり、質問して相手の考えを確かめたりするなど、課題や解決方法に疑問をもって追究しようとする姿勢が育てていく必要がある。                      ・昨年度と比べて学習の進め方で国語・算数共に意識して学習に取り組んでいる児童が多くなっているので、そのことを「勉強が好きで、大切である。」という感覚と結びつけることができるように肯定的な言葉がけを大切にして学習に取り組ませたい。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた内容やタイミングで「navima」を活用し、全児童の基礎基本の定着を図る。</li> <li>・Googleアプリや読みのアセスメント・指導パッケージ「MIM」を効果的に活用する。</li> </ul>
価値ある対話の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由や根拠を明らかにしながら話したり、意欲をもって聞いたりできる機会を設定する。</li> <li>・ICTを活用し、考えを共有、交流、比較、分類、関連付け、練り上げ、焦点化等できる機会を設定する。</li> </ul>
認め合う・学び合う集団の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年で、多様な考えや思いを認めたり、受け入れながらコミュニケーションを取る機会を設定する。</li> <li>・各自の考えやアイデアなどについて、効果的に発表、話し合い、交流などができる機会を設定する。</li> </ul>

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多層指導モデル「MIM」を活用して、下学年を中心に流暢性、語を正しく読む力、上学年でそれを基にした読解力を身に付けさせる。</li> <li>○系統的に書く機会を設け、自分の思いや考えを構成を考えて書くことのできる力を養う。</li> <li>○スピーチ、討論、ペア学習を取り入れ、全学年で系統的に指導し、聞く・話す力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読みのアセスメント・指導パッケージ「MIM」を効果的に活用し、つまづきの早期発見・早期支援をする。</li> <li>○経験したことや想像したことを順序よく書く力を養う。</li> <li>○スピーチなど、相手意識をもって話す活動を多く取り入れ、ハンドサインを活用し、友達の見聞を受け止めながら聞く意識をさせたりして、話す・聞く力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「MIM」のアセスメント結果を活用しながら、各自の実態に応じて、中心となる語や文、接続詞に着目して、段落相互の関係を考えながら読む力を養う。</li> <li>○文章を書く機会を多く設け、事例や理由などの関係を明確にして、自分の考えを書く力を向上させる。</li> <li>○スピーチや発表の機会を積極的に取り入れ、理由や事例を挙げながら話の中心を明確にして話す力を養う。また、相手の考えを聞き、それに対して質問や感想を述べることができる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「MIM」のアセスメント結果を活用しながら、各自の実態に応じて、主語、述語、修飾語などに着目させながら、文章を正しく読み取る力を養う。</li> <li>○構成を考えて文章を書き、書いたものを読み合ったりよところを認め合ったり助言し合ったりすることを通して、表現の幅を広げて文章を書く力を養う。</li> <li>○スピーチ、討論、ペア学習など、考えを述べたり、友達の見聞を聞いたりする活動を取り入れることで、事実と感想、意見を区別して話す力、自分の考えと比べながら聞く力を養う。</li> </ul>
社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象の特色や意味を考える問題解決的な学習を展開し、調べたことから考える力を身に付けさせる。</li> <li>○各学年の目標に応じた社会事象の見方・考え方を働かせるための資料提示や学習活動を取り入れた授業作りを実践していく。</li> </ul>	/		
算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「navima」を活用し、基礎的な知識の定着を図る。</li> <li>○課題提示・問題把握・問題解決・ふりかえりの学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。</li> <li>○思考力・判断力・表現力の育成に向け、図式化、立式方法の工夫など、数学的に考える力を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物・半具体物・ICT機器を有効に活用し、体験的な活動や視覚的支援を通して興味・関心を高めながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</li> <li>○問題解決の際には、既習事項を使って自分なりの考えもつことのできる力を養う。</li> <li>○navimaを使って学習や家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物等を有効に活用し、体験的な活動を通して興味・関心を高めながら、知識や技能の習得の意欲付けをする。</li> <li>○課題提示、問題把握、自分タイム、みんなのタイム ふりかえりの流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。</li> <li>○navimaを使って学習や家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題で演算決定をする際には、必要な数字や言葉に線を引かせたり、発表させたりする。</li> <li>○予想の段階で、どんな既習事項が使えるか確認し、解決の見通しをもたせる。</li> <li>○自力解決の時間を確保し、考えを「絵」や「図」、「表」で説明させる。また、友達の見聞を聞き、自分の考えと比べる活動を通して思考の深化を図る。</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	身に付けさせる。	省において学習内容の定着を図る。	省において学習内容の定着を図る。	しとらへる。 ○navimaを使って学習や家庭学習において学習内容の定着を図る。
理科	○一人一人が観察や実験を十分にできる環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開する。 ○実験・観察の技能の向上を図るとともに、科学的思考力を育てるために、実験の予想や結果、考察等、問題解決的な活動の充実を図る。		○実験・観察を十分にできる環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開する。 ○実験・観察を通して、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、その過程や結果について分かりやすく記録できるようにする。 ICT機器も適宜活用し、観察するのが難しい生き物の様子などもじっくりと見られるようにする。 ○問題解決的な活動を通して、既習事項や生活経験などを根拠として予想を立てたり、考えたことを適切に表現したりする力を養う。	○実験・観察を十分にできる環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開する。 ○実験・観察の学習活動を通して、目的に応じて器具や機器などを選択しながら調べ、過程や結果を適切に記録できるようにする。 ICT機器も適宜活用し、互いの考えを共有したり、実験の手順や結果を確認したりできるようにする。 ○問題解決的な活動を通して、科学的な事象の仕組みや性質などについて自ら問題を見出したり、互いの考えを伝え合いながら多角的に考えたりする力を養う。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	○児童の思いや願いを生かした活動を重視し、個人の新たな気付きを次の活動につなげることで、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。	○身近な人々や自然への関心と親しみを持ち、生活上必要な習慣や技能を養う。 ○身近な人々と伝え合う中で、ICT機器などを活用し、自分の生活をより良くする意欲を高める。		
音楽科	○低学年から、楽しく音楽表現をしたり、味わって聴いたりすることで、音楽に対する興味関心をもち、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。 ○曲想と音楽の構造などとの関わりで、音楽に対する興味関心をもち、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。 ○曲想と音楽の構造などとの関わりで、音楽に対する興味関心をもち、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。	○鍵盤ハーモニカや打楽器などの基本的な演奏の仕方や音階について学び、演奏する楽しさを実感できるようにする。 ○音楽表現への思いや鑑賞する豊かな心を育てるために、曲想と音楽の構造の関わりで目を向け自分の考えを取り入れながら演奏したり聴いたりできる能力を養う。	○学習のめあてを明確にし、児童自身が、何を学ばよいか理解したうえで学習を進められるようにする。 ○音楽の諸要素と、演奏方法の関係など、基礎的・基本的な知識や技能に何度も立ち返り、確認しながら学習を進めることで、これらを確実に身に付けさせ、高学年の学習に備える。	○これまでに積み上げてきた基礎的・基本的な知識や技能を確認しながら学習を進めさせ、確実な知識や技能を基に、曲や演奏の良さに気付いたり、自らの思いや意図を表現したりできるようにする。 ○ICT機器の利用も含め、周囲の友達と意見を交わしながら学習を進める機会を多く設け、音楽に対する様々な思いや意図を知り、自らの考えを深められるようにする。
図工科	○感じたことを交流する中で作品の題材や材料の違い、表現の面白さに気付くことができるようになる。 ○発達段階に適した「考えや思いを伝え合い、高め合う活動」を学習に取り入れ、感じ取った良さや面白さを自分の表現活動に生かすことができるようにする。	○土、粘土、クレパス、ハサミ、のり等の身近で扱いやすいものを用いることで、基本的な用具の扱い方を学習できるようにする。 ○材料の特徴を自分の体で味わえるよう、活動を通して形の色、表し方の面白さ、材料の感じ等を実感させる。	○始めに学習のめあてと規律を提示することで、安心・安全に学習できるようにする。 ○積極的な鑑賞活動を行うことで、鑑賞活動や多様性を尊重する精神の基盤を築く。 ○様々な技法や素材との出会いを通して、造形活動を楽しむとともに表現の面白さに気付かせる。	○既習事項と系統性を意識し題材設定を行い、自ら成長を感じ主体的に活動に取り組めるようにする。 ○鑑賞活動を始めとする様々な活動において、他者が作品に込めた思いやねらいがあることを意識させ、多様性を尊重する精神を養う。 ○ICT機器を活用して振り返りやポートフォリオ作成を行うことで、課題をもって次の活動の見通しをもてるようにする。
家庭科	○安全に学習するための基礎的な知識の定着を図るとともに、基本的な技能を身に付けさせる。 ○学習のめあてと振り返りをさせることにより、生活に生かせる実践力を養う。 ○学習のめあてを意識しながら生活課題の改善についてジャムボードを使って意見交流する。 ○どの学習・作業においても粘り強くかつ安全に学習に取り組む意識を育てる。			○製作に必要な用具の扱い方や手縫いの仕方、ミシンの使い方を丁寧に教え、取り組ませる。 ○活動の見通しとゴールを明確にし、家庭生活につなげるようにする。 ○どの場面でもどのような事故が起きやすいのかを話し、予防を促していく。
体育科	○運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(持久走・縄跳びの活動等)を推進する。 ○オリンピック・パラリンピック教育によるスポーツの素晴らしさを実感できる授業を推進する。	○楽しくできる運動に親しむ態度を養うとともに、友達と認め合い学び合いながら、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(持久走・縄跳びの活動等)を推進する。 ○オリンピック・パラリンピック教育によるスポーツの素晴らしさを実感できる授業を推進する。	○自己の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫し、運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(持久走・縄跳びの活動等)を推進する。 ○オリンピック・パラリンピック教育によるスポーツの素晴らしさを実感できる授業を推進する。	○自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫し、運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(持久走・縄跳びの活動等)を推進する。 ○オリンピック・パラリンピック教育によるスポーツの素晴らしさを実感できる授業を推進する。
外国語科	○日常生活について話される英語の内容を理解し、自分のことについて、先生や友達と英語で伝え合ったり、質問したり答えたりする力を伸ばす。 ○クロムブックやデジタル教科書を使い、学習した英語表現を活用できる学習場面を積極的に取り入れる。			○児童が自分事として捉えられるような学習課題を設定し、言語活動を通して、自分の思いや考えを伝える力を伸ばす。 ○デジタル教科書や「navima」を活用して基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○学習形態を工夫し、表現することやコミュニケーションを図ることの楽しさ

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

		を味わうことができるようにする。
--	--	------------------

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<p>○目的意識を明確にし、追究意欲の向上や子供の発達段階を考慮した体験的な学習、「考えるための技法」やICT機器の効果的な活用を通して探究する学習を充実させる。</p> <p>○全学年で教科等横断的な「福祉・健康」「国際・伝統」「地域」「自然」「防災」等をテーマとし、地域の方々など様々な人と関わりながら実社会、実生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。</p>		<p>○発達段階を意識して、身近なところから課題を発見し、体験的な活動を通して、ICT機器を効果的に活用しながら教科横断的に探究学習をしていく。</p> <p>○3学年では、地域の施設や特徴的な場所などに注目し、地域のよさや、地域で安心・安全に過ごすために必要なことについて探究する。</p> <p>○4学年では、他の地域や都道府県の特徴や伝統的な文化等に注目し全ての地域社会には、その地域ならではのよさがあり特色があることを探究する。</p>	<p>○発達段階を意識して、身近なところから課題を発見し、体験的な活動を通して、ICT機器を効果的に活用しながら教科横断的に探究学習をしていく。</p> <p>○5学年では、地域の特色や人々の暮らし、地域や環境のためにできることなどについて探究する。</p> <p>○6学年では、将来に向けて、情報モラルや情報リテラシー、さらには自分の生き方やキャリアそのために必要なことについて探究する。</p>
特別の教科 道徳	<p>○道徳教育推進教師を中心に、「特別の教科道徳」の時間を要とした、教育活動全体を通じた系統的・段階的な指導の充実を図る。</p> <p>○「特別な教科道徳」では、教科書を主として、東京都道徳教育教材集等を活用しながら、児童一人一人が道徳的価値について自分と向き合いながら考える授業に改善するとともに、個々の成長を見取った評価を実践す</p>	<p>○児童にとって身近な題材を選ぶことで、自己の経験や感じ方と結びつけ、道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○発言やペアトーク、役割演技等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>	<p>○児童にとって身近なことだけではなく、様々なことに興味・関心を広げて題材を選ぶことで、自分自身の努力だけではなく、家族や教師など、周りの人の励ましや賞賛等があるという道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○発言やペアトーク等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>	<p>○児童にとって身近なことだけではなく、先人や著名人の生き方等に触れるような題材を選ぶことで、様々な生き方への関心を高めるとともに自己の向上のためにより高い目標を設定し、道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○グループトークや討論等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>
特別活動	<p>○縦割り活動を通して、異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○異学年交流を活性化させることで、高学年のリーダーシップを育てる。また、代表委員会を中心としたあいさつ運動やふれあい月間など、児童の主体的な活動を通して、人権感覚を高めていく。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○係活動や当番活動を活性化させることで、低学年の自主性を育てる。また、身の回りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け、節度のある生活をするすることで、基本的な生活習慣の形成を図る。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○学級会を活性化させることで、互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活をする中でよりよい人間関係の形成を図る。また、SNSルール作りの学習を通して、心身ともに健康で安全な生活態度の形成を図る。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○学級会を活性化させることで、互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活をする中でよりよい人間関係の形成を図る。</p> <p>○キャリア教育を通して、学級や学級での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする態度の形成を図る。</p>
外国語活動	<p>○歌やチャンツ、デジタル教材等を使って、英語の語彙や語句の音声を開いたり、発音したりする活動や会話の表現に慣れ親しむ活動を充実させる。</p> <p>○ICT機器を活用した授業改善、専科教員とALTが連携した指導を推進する。</p>	<p>○歌、チャンツにより英語の音声に慣れ親しみ、日本語との音の違いに気付きながら発音できるような活動を充実させる。</p> <p>○ICTを活用して絵カードや教材を視覚化する。</p> <p>○簡単な表現に慣れ親しみ、相手と伝え合う活動を積極的に取り入れる。</p>	<p>○英語の音声に十分に慣れ親しみ、言語活動を通して、児童がコミュニケーションを楽しさを味わいながら学習できるように指導する。</p> <p>○デジタル教材や絵本、ALTと専科教員とのやり取りなどを活用し、児童が学習内容を推測したり、予想したりしながら学習活動に取り組むことができるようにする。</p>	